

Ⅳ ヒアリング調査からみた経営動向

1 製造業

(1) 一般機械器具

【業界の動向】

県内の一般機械の生産指数（埼玉県鉱工業指数月報による季節調整済指数。以下同じ。）は、直近の平成30年3月で、はん用機械工業が152.5（前月比4.0%減少、前年同月比7.8%増加）、生産用機械工業が102.5（前月比56.7%増加、前年同月比149.3%増加）、業務用機械工業が59.9（前月比3.2%減少、前年同月比31.6%減少）であった。

【景況感】

- ・受注や採算の動向は良好であることから、景況感は好況であると感じている
- ・受注状況は良好であるが、原材料高もあり景況感は普通であると感じている

【売上げ】

- ・売上高は増えている。半導体関連が依然として好調
- ・フル稼働であった前年同月比に比して売上高は若干下がった
- ・原材料価格は上昇基調であり、一部受注価格に転嫁できた
- ・原材料費上昇分の価格転嫁が難しい

【原材料価格】

- ・鋼材関連が前期比5%程度上昇した

【採算性】

- ・生産体制のフル稼働状態が継続しており、生産性は向上しているため、採算性は向上している
- ・生産性の向上で、原材料費増加分と人件費増加分を補っている状態

【設備投資】

- ・生産性向上に向けた新規設備投資を行った

【今後の見通し】

- ・当面現状が続くとみていることから、景況感の先行きについても良い方向に向かうとみている
- ・原材料高に加え、円高基調も気になるところであり、先行きはどちらともいえない

(2) 輸送用機械器具

【業界の動向】

県内の輸送用機械の生産指数は、直近の平成30年3月に101.0%となり、前月比で3.9%増加、前年同月比でも12.9%の増加となった。

【景況感】

- ・好況である
- ・業界単位で好況・不況の分けは難しい
- ・業界内でも勝ち組・負け組にわかれている
- ・業界内の中小企業すべてが好況というわけではなく、各企業の努力次第で状況が大きく異なっている

【売上げ】

- ・全体の売上げは増えてはいないが、個別案件の受注で売上げが伸びている
- ・廃業した同業者の注文分が回ってきている
- ・得意先がメーカーの受注を獲得できなかったため、受注が減った

【受注単価】

- ・原材料高を価格に反映してもらおうよう強く依頼している
- ・主要取引先からのコストダウン要請により下がった

【原材料価格】

- ・原材料は取引先からの支給で、影響はない

- ・軒並み上昇している
- ・原材料の高騰分は上乘せをお願いしている

【採算性】

- ・新規受注案件の生産立ち上げに係る先行投資分が影響している
- ・得意先がメーカーの受注を獲得できなかったため悪化した

【設備投資】

- ・EV用部品も製造可能な設備を導入した
- ・廃業した同業者からの買取

【今後の見通し】

- ・ディーゼル乗用車向けは売上減少も産業用機械向けは好調
- ・どちらともいえない

(3) 電気機械器具

【業界の動向】

県内の電気機械の生産指数は、直近の平成30年3月に95.0となり、前月比で12.9%減少、前年同月比でも15.6%の減少となった。

【景況感】

- ・大企業は業績が良いが、中小企業や零細企業はそうでもないと思う
- ・普通である
- ・やや好況である

【売上げ】

- ・上場企業が1月から6月は生産調整に入るため、良くない
- ・増えた
- ・ガラス部門の大口客の受注が少なかったため、減った

【受注単価】

- ・得意先要求数は増える見込みだが、利益は望めない
- ・下がった
- ・価格交渉をしたので、上がる見込み

【人件費】

- ・中途採用が多いため、増えた
- ・大幅に増えた
- ・定期昇給で増えた

【採算性】

- ・売上げは下がっているが採算性は上がっている。営業がバランスを考えている
- ・新規取り込みの諸費用で悪くなった
- ・ガラス部門の受注減により、悪くなった

【設備投資】

- ・研磨装置を近日中に導入する予定
- ・クリーンルーム室専用特殊エアコンほか
- ・ゆくゆくは海外に設備投資する

【今後の見通し】

- ・新規事業、例えばEV自動車などに参入しないと厳しい
- ・良い方向に向かう
- ・どちらともいえない

(4) 金属製品

【業界の動向】

県内の金属製品の生産指数は、直近の平成30年3月に78.6となり、前月比で3.3%増加、前年同月比では2.3%の減少となった。

【景況感】

- ・原材料高など不安要素もあるものの、受注状況は旺盛であり景況感は良好であると感じている。
- ・現状からみて若干なりとも好況であるとみている

【売上げ】

- ・受注は旺盛であり売上高は増えている
- ・フル稼働の状態が続いている

【受注単価】

- ・新規受注については原材料価格などを踏まえて上がっているが、既存受注については下げ圧力を受けている
- ・原材料高は転嫁できず、受注単価は変わらない水準となっている

【原材料価格】

- ・鉄・ステンレス・アルミの価格が上昇している
- ・金属や鍍金用の化学薬品の単価が上がっている

【採算性】

- ・売上高増加に伴う生産性の向上と経費削減によって原材料価格高騰分をカバーしている状態
- ・受注の増加によって生産効率が上がり採算性は良くなっている
- ・経費削減努力もあって変わらない水準

【設備投資】

- ・生産性向上を目的とした新規機械への投資を行った
- ・新規設備投資を行う企業が増えた

【今後の見通し】

- ・先行きの景況感については、半導体関連で一部調整が入ったことから、どちらともいえないと感じている
- ・原材料高もあり、どちらともいえない
- ・当面良い方向に向かうとみている

(5) プラスチック製品**【業界の動向】**

県内のプラスチック製品の生産指数は、直近の平成30年3月に79.2%となり、前月比で3.4%増加、前年同月比では6.0%減少となっている。

【景況感】

- ・好況である
- ・普通である

【売上げ】

- ・半導体、医療、食品、自動車いずれも好調
- ・CVS関連が伸びた

【受注単価】

- ・原材料価格の上昇分を単価に反映してもらっているため上がった
- ・コストダウン要請については、従来と異なり、受注者側の創意工夫によるコストダウン提案の依頼あり
- ・新規案件は単価を高めにして受注している

【人件費】

- ・新規採用者分の増加
- ・好況のため残業代の増加

【原材料価格】

- ・ナフサ価格の上昇に応じて原材料費も上がっている
- ・樹脂材料が全般的に上昇

【採算性】

- ・外注品を内製化することで改善を促進中
- ・ほとんど変わらない
- ・複合的な要因により悪くなった

【設備投資】

- ・倉庫を新設した
- ・事務所の建て替え
- ・老朽化が進んでいる設備はBCPの側面からも入れ替えを検討する

【今後の見通し】

- ・良い方向に向かう
- ・良い方向に向かう。消費税増税やオリンピック後の景気が気になる

(6) 食料品製造**【業界の動向】**

県内の食料品の生産指数は、直近の平成30年3月に100.2となり前月比で3.7%増加、前年同月比では5.3%減少となった。

【景況感】

- ・新規事業も出足は好調に推移しており、好況であるとみている
- ・受注量は増加しており、若干なりとも好況であると感じている

【売上げ】

- ・新規事業が好調で売上高は増えている。主力のコンビニ向けOEMの受注も増えている
- ・テレビから取材を受ける等、認知度は増していると感じる。こうした努力もあって売上げは増えている

【製品単価】

- ・前期に比してほぼ変わらない水準

【人件費】

- ・ベースアップも行って1人当たりの賃金を引き上げた

【採算性】

- ・受注単価も原材料価格もほぼ変わらなかったため採算性も前期と同水準となった
- ・原材料高を経費でしのいでおり、大きな変動はない

【設備投資】

- ・工場内の機械投資を行った
- ・新工場の稼働を本格検討している

【今後の見通し】

- ・事業に勢いがあることから当面景況感の良い方向に向かっていると感じる

(7) 銑鉄鋳物（川口）**【景況感】**

- ・現在は安定しているのではないかと
- ・割合と好況である

【売上げ】

- ・建設機械関連の発注が増えている
- ・全体的に上向きである。特に、鋌山機械部品や事務什器に関する受注が好調

【製品価格（受注単価）の動向】

- ・銑鉄が値上がりしている
- ・鋳型を固める際に使うフラン樹脂などの副資材の値上がり

【採算性】

- ・どの企業も残業ができず、さばける発注量が限られている。このことが収益を圧迫しないか心配

- ・以前は取引先からの値下げ圧力が当たり前にあったが、最近は無理を言われなくなってきている。今期は原材料費が上がったものの、なんとか採算をとっている

【今後の見通し】

- ・鋳物工場はもう減りきったのではないか。今、残っている企業は、技術をもち、安定した品質を供給できる企業がほとんどである。よって、現存している鋳物業者は比較的安定した仕事がある

(8) 印刷業

【業界の動向】

県内の印刷業の生産指数は、直近の平成30年3月は87.8となり前月比で2.0%増加、前年同月比では4.7%減少となった。

【景況感】

- ・人口減かつペーパーレス化で業界として伸びていない
- ・企業の規模によって格差があり、一見景気は悪いようには見えないかもしれないが、良くはないと感じる
- ・受注もあり、好況ではあるが、人手不足は懸念材料である

【売上げ】

- ・得意先や受注数にはほぼ変化はないが、版あたりのロット数が落ちている
- ・新聞購読数の減少でチラシも減っている
- ・小売業の販促チラシも回数が減っている
- ・得意先もある程度固定されており、新規取引がない

【受注単価】

- ・小ロットにより、製品価格が下がる
- ・ロットが小さいからといって単価に上乘せできない
- ・これまでの単価設定を見直したいと考えている
- ・同じ得意先でも単価の高いものも低いものもあり、トータルでの受注ではトントンである

【原材料価格】

- ・紙の値上げが近づいているとの話があり、特殊用紙はすでに値上がりしているものもある
- ・原材料価格は上がっているが、仕入れ先や方法を工夫して安くなるように努力している
- ・メーカーによって価格差があるため、慎重に選ばないといけない

【採算性】

- ・ほとんど変わらない
- ・価格見直しをしたいが、一度下げた価格を上げるのは困難である
- ・材料費の高いものは受けないようにして、採算を意識しながら受注している

【設備投資】

- ・大がかりな更新はないが、情報処理関連の機器を更新した
- ・来期は印刷機の更新を予定しているが、取扱いメーカーが少なく交渉が困難である

【今後の見通し】

- ・収益のよくない仕事は断るようになっているが、大手からの受注がないと厳しい
- ・どちらともいえない
- ・良い方向に向かうと思って頑張りたい

2 小売業

(1) 百貨店

【業界の動向】

商業動態統計によると、県内百貨店の平成30年4月の販売額は、既存店ベースで前年同月比3.8%の減少となり、5か月連続で前年同月を下回った。

【景況感】

- ・良くも悪くもなく普通である
- ・お客さまもお金の使いどころを分けており、好況とは言えない
- ・普通であるが高級品の単価が下がっているのは気になる

【売上げ】

- ・ポイント施策や店内イベントで、売上げ、単価アップが図れた
- ・春夏物の婦人服が好調だがメーカーが生産調整をして品種も少なく、再入荷も少ない
- ・化粧品が好調で、単価・点数とも上がっている
- ・大手家具メーカーのテナント新設で売上げが上がった

【諸経費】

- ・従業員が減少しており、人件費は減少している
- ・広告を打たない週を計画的に設けるなど、広告宣伝費は減らしている

【採算性】

- ・経費は切り詰めるところまで切り詰めているが、悪くなっている
- ・利益率の高い衣料品が不調のため、悪くなっている
- ・傾向としてはほとんど変わらない

【今後の見通し】

- ・衣料品、化粧品、宝飾品が回復傾向にあり、よい方向に向かうと思う
- ・消費税率引上げが近づいており、前倒しの需要増があると思う
- ・良くなる要素は特段ないため、どちらともいえない

(2) スーパー**【業界の動向】**

商業動態統計によると、県内スーパーの平成30年4月の販売額は、既存店ベースで前年同月比1.3%の減少となった。全店ベースでも前年同月比0.4%の減少となり、2か月連続で悪化した。

【景況感】

- ・ぱっとしない。やった分のリターンがないが、現状維持はできている
- ・普通である
- ・客が必要最小限のものしか購入せず、ちょっと贅沢するというのが少ない

【売上げ】

- ・ほとんど変わらない
- ・刺身が売れるから、客単価が良い
- ・日配は不調。ドラッグストアに客を持っていかれる
- ・増えた。家庭での「作らない化」が浸透。家庭で作ると手間のかかるお惣菜を充実させている

【諸費用】

- ・10月にパートの最低賃金が改定されるため、人件費が上がる見込み
- ・アルバイトの時給アップと新卒3年以内の社員のベースアップ。加えて社会保険料が高い
- ・広告宣伝はデジタル化に注力している。ポイント経費が増えた

【採算性】

- ・日配は利益率が低いいため、ほとんど変わらない
- ・惣菜等、食品の加工に力を入れているため、良くなった
- ・良くなった。賃貸だった駐車場を解約し、賃料が減額したため。業界全体としてはほとんど変わらないと思う

【今後の見通し】

- ・夏の暑さによる。暑いと売上げが下がる
- ・競合店の近隣出店に左右される。大企業の出店は、小規模企業を圧迫する。後継者がおらず、廃業してしまう
- ・良い方向に向かう。働き方が見直されるなかで、労働生産性は上がるのではないかと

(3) 商店街

【業界の動向】

平成30年5月の月例経済報告は、個人消費について「個人消費は、持ち直している。実質総雇用者所得は緩やかに増加している。また、消費者マインドは持ち直している。」と総括している。

【景況感】

- ・底打ちから少しは良くなっているのかなという印象はある
- ・近隣店舗の休業で売上げは上がっており、好況と言えると思う
- ・相変わらず物販店は厳しく、不況である

【来街者】

- ・観光客も増えているが、飲食店では対応できる範囲は限られており、売上げが飛躍的に伸びるということはない
- ・地元のお客さんは、日用品や生鮮食品の店が少ないので、商店街に毎日来る仕組みができず、大型店に流れてしまう
- ・土・日はハイカーが多いが、あまりお金を使う印象はない
- ・年に一度、来街者調査を行っているが、住宅地も多く、地元住民（高齢者中心）が大半である

【個店の状況】

- ・最寄り駅内のスーパーが改装中につき、商店街内のスーパーやコンビニの売上げが増加している
- ・昨年入居した整骨院が、商店街内に競合も多い中で好調な業績を上げており、近くに2店目をオープンする
- ・観光客が入る店舗はよいが、物販店は苦戦している
- ・最近では1階の空き店舗が少なく、飲食店は2階に入居している事例もある

【商店街としての取組】

- ・店舗の写真入りガイドマップを作成したところ、好評であり増刷するとともに組合証代わりに店舗の見えるところに掲示する予定である
- ・ツーデーマーチに合わせて100円商店街を開催しているが、リピーターが多く訪れる一方で、通常、買い物に来ない客も集まってくる
- ・定期的にアニメファン向けのイベントを開催しているが、リピーターも多く、地元店舗と交流の機会の一つになっている
- ・大手スーパーも単独ではイベントはないため、夏のイベントには協賛してもらい商店街として大きなイベントの一つとなっている
- ・これまでのイベント実績の積み重ねにより、企画・運営において若手も失敗を恐れずに挑戦できる土壌ができてきている

【今後の課題等】

- ・生鮮品の扱いが来街者の増加には必要であるが、新店舗のハードルは高いので、既存店舗の一角に野菜を置くなど、複数業種が広がる工夫をするのとよいと考えるので、そのための支援もほしい
- ・組合費が高いとの声もあり、今後見直しも必要になってくるかもしれない

【今後の見通し】

- ・お盆前後で休みをとる店舗も多く、どちらともいえない
- ・夏祭りなどイベントは多いが毎年恒例であり、どちらともいえない

3 情報サービス業

【業界の動向】

特定サービス産業動態統計調査によると、情報サービス業の売上高は、直近の平成30年3月は前年同月比1.2%の減少となり、2か月連続で減少した。

【景況感】

- ・普通である
- ・好況である

【売上げ】

- ・ほとんど変わらない。安定している
- ・ほとんど変わらない。人手不足なので営業していない
- ・増えた

【製品価格】

- ・一人当たりの単価は微増。毎年春に客先と価格交渉をしている
- ・ほとんど変わらない
- ・上がった

【人件費】

- ・増えた。教育費用がかかる
- ・4月に定期昇給。社会保険料が高い

【設備投資】

- ・ビルが築33年のもの。外壁修繕を行った
- ・実施しない
- ・事業所拡大・移設(県外)

【採算性】

- ・ほとんど変わらない

【今後の見通し】

- ・9月に特定労働者派遣事業が廃止され、厚生労働省の許可を受けないと継続できなくなる。資産状況の基準をクリアしなければならないため、優良な企業だけが残ると考える
- ・オリンピックまで変わらないのではないか。特需もない
- ・好況である

4 サービス業

【景況感】

- ・顧客からの引き合いが強く、好況であると感じる

【売上げ】

- ・当社は顧客は団体客が中心であるが、前期と比べて仕事の引き合いが増えている

【受注単価】

- ・大型バスのドライバー不足で契約単価は若干上がった

【諸費用】

- ・ガソリン代については上がっている

【採算性】

- ・ほとんど変わらない水準

【今後の見通し】

- ・しばらくは現状維持されるとみており、良い方向に向かうと感じている

5 建設業

【業界の動向】

「建設総合統計（出来高ベース）（国土交通省）」における埼玉県の様況は、直近の平成30年3月で1,931億円、前月比2.2%減少、前年同月比8.8%増加となった。

【景況感】

- ・受注量は依然として好調であり景況感は好況と感じる
- ・不動産市況は堅調に推移しており景況感は好況であるとみている

【受注高】

- ・人員の不足から受注をこなせる量が限界にきており売上高は横ばいで推移している

【受注価格】

- ・受注単価については前期と変わらない水準

【資材価格】

- ・鉄筋関連が10%～20%上がった

【採算性】

- ・人件費や資材価格の上昇は経費削減でカバーしており採算性は変わらない

【設備投資】

- ・特筆すべき設備投資は行わなかった

【今後の見通し】

- ・当面現状が続くとみており、景況感の先行きは良い方向に向かっているとみている